



校長 淺野 博 一

私は、心温まる行為に、とても胸が熱くなるとともに、とても嬉しくなりました。…こうした温かい心は、家庭や地域や学校で、人と人との間のかかわりの中ではぐくまれるものだと思います。子どもたちの心を共に大切にはぐくんでまいりましょう。

7月に入ると1学期のまとめの時期となります。どうか、お子さんの日々の頑張りをほめてあげてください。一生懸命に取り組むこと、けんかして仲直り…どれも、かけがえのないことです。「文字を書くことができるのは、素晴らしいこと。子どもたちが一生懸命に書いた字は、どれも素晴らしい。」・・・改めてこう思うきっかけとなった文章があります。以下に掲載した手紙は、子どものころ学校に行くことのできなかった北代さんが、識字学級に通い、字を勉強して、70歳になって初めて自分の手で書いたものでした。手紙には、「夕やけを見てもあまりうつくしいと思わなかったけれど、字をおぼえてほんとうにうつくしいと思うようになりました。」と、北代さんの前に広がる新しい世界への感動が書かれています。

ちやうどはうちがひんぼうで斬つたので
 げつコウについておりました。
 だがもしもさうでせうしりまゐるんでした。
 いましましりばさうでとまよつて
 がなはだいたにおぼえまじりた
 いままでおしいやういってそつぱつて
 なままとまがいてそつぱつていましなかつた
 にもいふておいてたのうてみまじりた。
 みるみるみさんおひださるゝとよんでくれなうて
 へんうちめしなうて。
 ちやうどはうちがひんぼうで斬つたので
 げつコウについておりました。
 だがもしもさうでせうしりまゐるんでした。
 いましましりばさうでとまよつて
 がなはだいたにおぼえまじりた
 いままでおしいやういってそつぱつて
 なままとまがいてそつぱつていましなかつた
 にもいふておいてたのうてみまじりた。
 みるみるみさんおひださるゝとよんでくれなうて
 へんうちめしなうて。

子どもは、日々、一生懸命に努力しています。我が子のがんばり、我が子の歩みに寄り添い、認め、はげましていただきたいと思います。

さて、まもなく子どもたちは待ちに待った夏休みを迎えます。長い休みは、子どもたちが普段できない体験をし、心を大きく育てる貴重な時間です。私自身、小学生のころ、夏休みに初めて“セミの羽化”を目撃し、自然の神秘に胸を打たれたことを今でも鮮明に覚えています。家の裏で「セミのぬけがら？」のようなものがよちよち歩いていたので、そっと木の幹に移してあげました。すると、少し登ったところで動きを止め、やがて背中が割れ、言葉では言い表せないほど美しい白色のセミが姿を現したのです。あの瞬間に感じた驚きと感動は、今でも私の心の中で輝き続けています。

レイチェル・カーソン著「センス・オブ・ワンダー」にあるように、子どもと一緒に自然の神秘を再発見し、感動を分かち合っていたきたいと思います。